

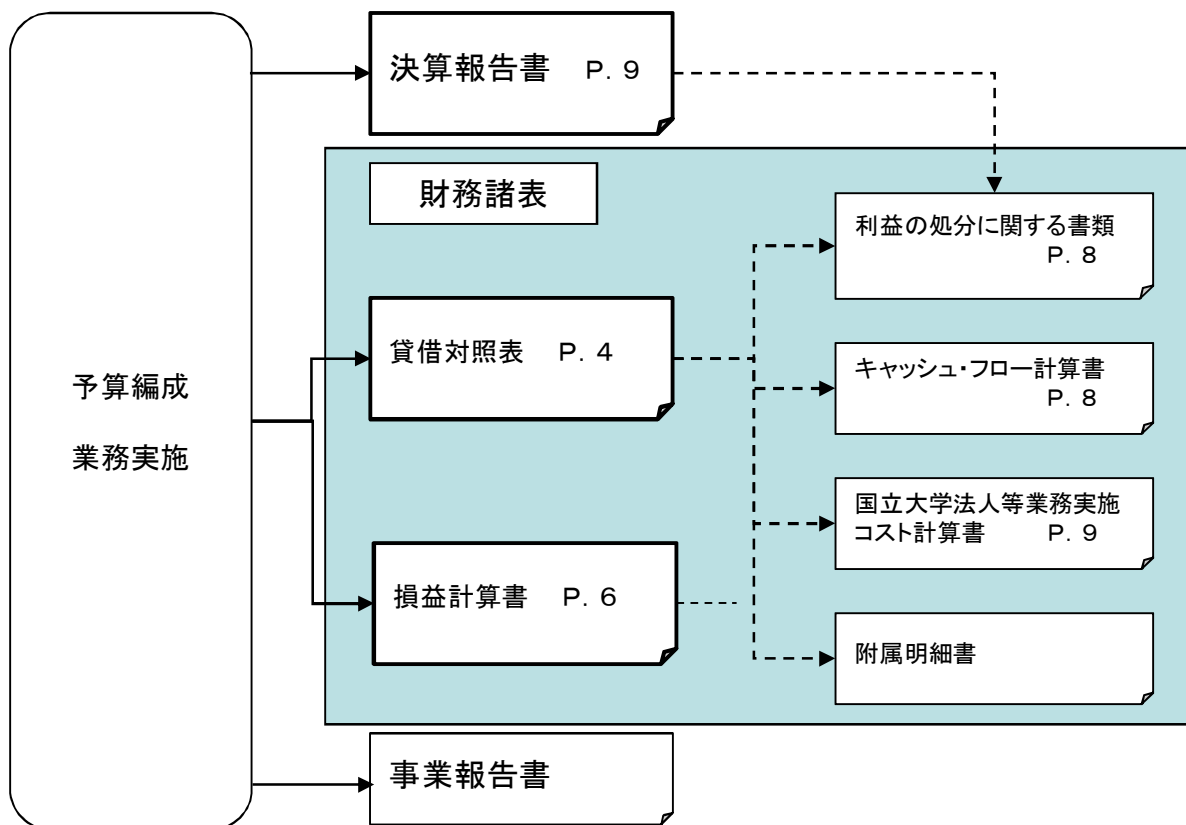


HIROSAKI
UNIVERSITY

平成20事業年度 財務状況の概要

国立大学法人弘前大学

大学の業務と財務諸表



財務諸表	作成目的
貸借対照表	国立大学法人の財政状態を明らかにするために資産、負債、資本の科目を一表に集約した財務諸表です。業務運営に利用される資金の調達源泉とその資金が運用されている状態を知ることができます。
損益計算書	国立大学法人の運営状況を明らかにするために費用と収益を記載して、当期純利益及び当期総利益を計算した財務諸表です。業務の実施に費やした費用と得られた収益の状況を知ることができます。
利益の処分に関する書類	損益計算書により算定された当期総利益に前期繰越欠損金を差引きした当期末処分利益の処分内容を明らかにするために作成される財務諸表です。
キャッシュ・フロー計算書	資金の流れを業務活動、投資活動、財務活動の活動区分別に表示する財務諸表です。
国立大学法人等業務実施コスト計算書	業務運営に関して国民が負担するコスト情報を開示する財務諸表です。

平成20事業年度財務状況の概要

【貸借対照表】

(単位:百万円)

資産の部	73,149	負債の部	35,805
土地	19,640	資産見返負債	6,888
建物, 構築物	30,937	借入金	18,934
工具器具備品	5,164	運営費交付金債務	872
図書	4,323	寄付金債務	1,600
現金及び預金	7,819	未払金	6,697
有価証券	1,062	その他	814
未収付属病院収入	2,658		
その他	1,546		
		純資産の部	37,344
		資本金	25,532
		資本剰余金	5,758
		利益剰余金	6,054

【損益計算書】

経常費用	29,996	経常収益	31,729
業務費用	28,293	運営交付金収益	10,631
教育研究費	2,731	授業料, 入学金等収益	4,019
診療経費	8,933	附属病院収益	14,716
受託研究等	843	受託研究等収益	844
人件費	15,786	施設費収益	288
一般管理費	1,066	寄付金収益	440
財務費用	637	資産見返負債戻入	518
		その他	273
臨時損失	253	臨時利益	1
当期純利益	1,483	目的積立金取崩額	2

【貸借対照表】

資産は教育・研究及び診療等の業務を行うため所有する土地、建物、現金及び預金等で、平成20事業年度末の総額は、731億4千9百万円です。また、その他には、建設仮勘定(建物竣工前)5億8千1百万円、ソフトウェア1億1千4百万円等が含まれます。

負債は借入金等の将来返済しなければならない金銭債務等で、平成20事業年度末の総額は358億5百万円です。また、その他には、前受金4億1千2百万円等が含まれます。

負債の中で資産見返負債は、支払義務のない負債で、固定資産の取得時にその同額を取得財源から振り替え、減価償却のたびに同額が負債から収益に振り替えられます。

また、寄附金債務については、寄附金を受け入れた時点では収益として認識せず、負債(債務)として計上し、業務費用としての支出額を取り崩して負債(債務)から収益へ振り替えます。

純資産は資産総額から負債総額を差し引いたもので、平成20事業年度末の総額は373億4千4百万円です。

資本金は国からの出資によるものです。

資本剰余金は本学の基礎的財産を構成するもので、施設整備費補助金や目的積立金により取得した資産相当額等が含まれています。また、利益剰余金は国立大学法人の業務活動から生じた利益で、当期未処分利益14億8千3百万円が含まれています。

【損益計算書】

経常費用は大学の本務である教育・研究及び診療活動等に要した業務費用と、これらの業務を支える一般管理費、財務費用(借入金利息等)で構成されています。

平成20事業年度の1年間で、大学の業務運営に要した費用は299億9千6百万円です。

経常収益は1年間の業務運営から生じた収入で、総額317億2千9百万円です。

収益は運営費交付金収益や施設費収益等の国から措置されたものと授業料、入学金等収益や附属病院収益等の自己収入があり、国からの措置額は約34%となっています。

また、資産見返負債戻入は負債に計上されている資産見返負債のうち、当期の減価償却費相当額が収益化されたものです。

経常利益は経常収益から経常費用を控除したもので、上記の損益計算書に記載していませんが、17億3千2百万円となっています。

臨時損失及び臨時利益は固定資産の撤去費用の支払いや除却損及び収益化によるものです。

目的積立金取崩額は経常費用のうち、目的積立金で計上された額を取り崩したものです。

当期総利益は総収益額(経常収益+臨時利益+目的積立金取崩額)から、総費用額(経常費用+臨時損失)を控除したもので、平成20事業年度は14億8千3百万円になっています。

財務分析について

財務諸表の数値を活用することで、本学の債務支払能力や業務運営の効率性、発展性や教育研究経費及び一般管理費の水準等の状況を把握し、財務内容の改善や今後の大学運営に役立てるため、以下のとおり財務分析を行っています。

健全性・・・流動比率は、投資有価証券(固定資産)の満期償還により流動資産(預金等)が増加し、高くなっています。また、自己資本比率については、施設整備費補助金等で固定資産を取得したため自己資本が増加し、高くなっています。

効率性・・・人件費比率については、人件費が減少し、教育経費、研究経費及び診療経費等が増加したため、低くなっています。

収益性・・・診療経費比率は、診療材料費の増などで診療経費が増加したものの、外来患者の増や手術件数の増により附属病院収益が増加したため、低くなっています。

発展性・・・外部資金比率は、受託研究及び受託事業の収益増により、高くなっています。

活動性・・・教育及び研究経費の比率は、教育経費及び研究経費ともに増加したため、高くなっています。

キャッシュ・フロー計算書・・・附属病院収益対長期借入金返済の比率については、返済財源である附属病院収益が増加したため、低くなっています。

業務実施コスト計算書・・・定年等による退職者が前年度より少なかったため、在職者の退職給付等の見積額が上がり業務コストも上がっており、学生一人当たりの国民負担額が高くなっています。

分析	指標	平成19事業年度	平成20事業年度	増減	指標の判定
健全性	流動比率	112.67%	111.29%	△1.38ポイント	比率が高いほど、支払余力がある。
	自己資本比率	49.10%	51.05%	+1.95ポイント	比率が高いほど、債務の支払能力が高い。
効率性	人件費比率	57.74%	55.79%	△1.95ポイント	比率が高いほど、労働集約的な費用構造にある。
	一般管理費比率	3.20%	3.77%	+0.57ポイント	比率が高いほど、管理的経費が高い。
収益性	診療経費比率	60.88%	60.70%	△0.18ポイント	比率が低いほど、収益性が高い。
	経常利益比率	6.17%	5.46%	△0.71ポイント	比率が高いほど、収益性が高い。
発展性	外部資金比率	3.83%	4.05%	+0.22ポイント	比率が高いほど、外部資金への依存率が高い。
活動性	教育経費比率	3.97%	4.48%	+0.51ポイント	比率が高いほど、教育活動の割合が高い。
	研究経費比率	3.77%	4.14%	+0.37ポイント	比率が高いほど、研究活動の割合が高い。
キャッシュ・フロー計算書	附属病院収益対長期借入金返済	13.10%	12.15%	△0.95ポイント	比率が高いほど、長期借入金返済の割合が高い。
業務実施コスト計算書	学生当業務コスト	1,663千円	1,727千円	+64千円	数値が高いほど、学生1人あたりの国民負担額が高い。

流動比率 = 流動資産 ÷ 流動負債

自己資本比率 = 自己資本 ÷ (負債 + 自己資本)

人件費比率 = 人件費 ÷ 業務費

一般管理費比率 = 一般管理費 ÷ 業務費

診療経費比率 = 診療経費 ÷ 附属病院収益

経常利益比率 = 経常利益 ÷ 経常収益

外部資金比率 = (受託研究等収益 + 受託事業等収益 + 寄附金収益) ÷ 経常収益

教育経費比率 = 教育経費 ÷ 業務費

研究経費比率 = 研究経費 ÷ 業務費

附属病院収益対長期借入金返済 = (長期借入金返済 + 財務経営センター納付金) ÷ 附属病院収入

学生当業務コスト = 業務コスト ÷ 学生実員 (大学院含む)

貸借対照表の概要

(単位:百万円)

項目	平成19事業年度 (H20.3.31現在)	平成20事業年度 (H21.3.31現在)	対前年度増減額(率:%)
資産の部	70,206	73,149	2,943 (4.19)
固定資産	58,872	61,873	3,001 (5.10)
土地	19,640	19,640	0 (0.00)
建物, 構築物	29,948	30,936	988 (3.30)
工具器具備品	3,435	5,164	1,729 (50.33)
図書	4,271	4,323	52 (1.22)
建設仮勘定	420	581	161 (38.33)
投資有価証券	951	562	△ 389 (△40.90)
その他	207	667	460 (222.22)
流動資産	11,334	11,276	△ 58 (△ 0.51)
現金及び預金	7,880	7,819	△ 61 (△ 0.77)
未収附属病院収入	2,514	2,658	144 (5.73)
有価証券	611	500	△ 111 (△18.17)
その他	329	299	△ 30 (△ 9.12)

【資産】

資産総額は29億4千3百万円増加の731億4千9百万円となっています。

《特筆すべき点》

①建物, 構築物

学園町屋内運動場の新営や本町地区総合研究棟の耐震改修等に伴い, 建物, 構築物で約27億5千9百万円の資産が増加していますが, 建物, 構築物の減価償却費が約17億6千5百万円, 排水設備などの除却で約6百万円の減少となったことから, 全体で9億8千8百万円の増となっています。

②工具器具備品

新規事業による設備の取得(保健学研究科の生体情報・生体機能評価システム等)や, 平成20年度補正予算により設備を取得(附属病院の洗浄・滅菌システム等)したこと等で, 17億2千9百万円の増となっています。

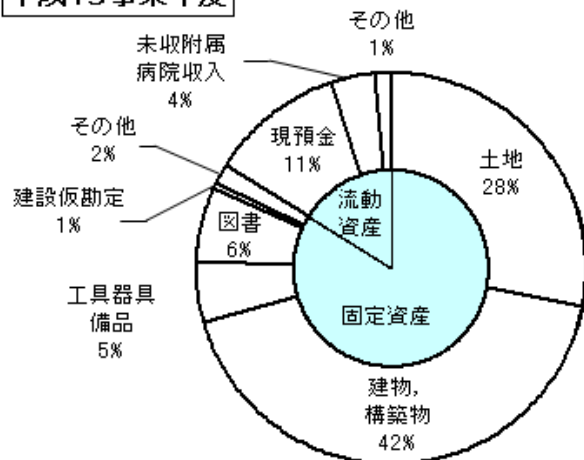
③投資有価証券, 有価証券

平成18事業年度に購入した有価証券が, 満期償還されたことで, 投資有価証券(固定資産)と有価証券(流動資産)をあわせて, 約5億円減少しています。

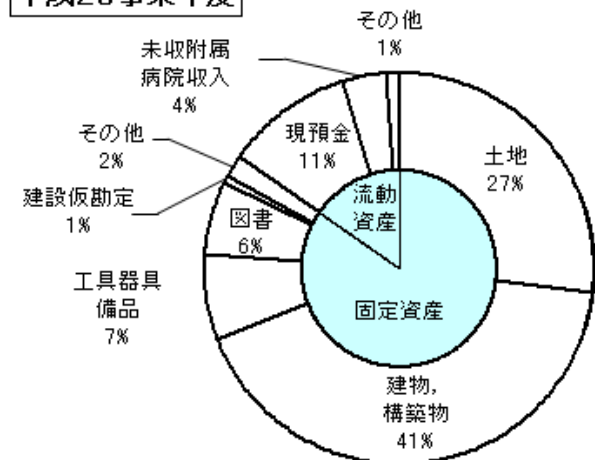
しかし, 新たに5億円の大口定期預金を行ってことから, その他(固定資産)が4億6千万円の増となっています。

(*注 固定資産のその他には, 車両運搬具や機械装置などの償却資産が含まれており, 減価償却費の影響等により全体で4億6千万円の増となります。)

平成19事業年度



平成20事業年度



(単位:百万円)

項目	平成19事業年度 (H20.3.31現在)	平成20事業年度 (H21.3.31現在)	対前年度増減額(率:%)
負債の部	35,732	35,805	73 (0.20)
固定負債	25,672	25,673	1 (0.00)
資産見返負債	6,695	6,888	193 (2.88)
借入金	18,658	17,172	△ 1,486 (△ 7.96)
長期未払金	211	1,509	1,298 (615.17)
その他	108	104	△ 4 (△ 3.70)
流動負債	10,060	10,132	72 (0.72)
運営費交付金債務	852	872	20 (2.35)
寄附金債務	1,456	1,600	144 (9.89)
借入金	1,770	1,762	△ 8 (△ 0.45)
未払金	5,286	5,187	△ 99 (△ 1.87)
その他	696	711	15 (2.16)
純資産の部	34,474	37,344	2,870 (8.33)
資本金	25,532	25,532	0 (0.00)
資本剰余金	3,773	5,758	1,985 (52.61)
資本剰余金	8,648	11,645	2,997 (34.66)
損益外減価償却累計額	△ 4,859	△ 5,871	△ 1,012 (△ 20.83)
損益外減損損失累計額	△ 16	△ 16	0 (0.00)
利益剰余金	5,169	6,054	885 (17.12)
目的積立金	1,421	1,420	△ 1 (△ 0.07)
積立金	2,074	3,151	1,077 (51.93)
当期末処分利益	1,674	1,483	△ 191 (△ 11.41)

【負債】

負債総額は7千3百万円増加の358億5百万円となっています。

《特筆すべき点》

①借入金

平成20事業年度では、約17億7千万円の返済を行いました。新規借入として附属病院旧外来診療棟の取り壊し等のため約2億7千6百万円を借り入れています。これにより、固定負債で14億8千6百万円、流動負債で8百万円の減となり、合計14億9千4百万円の減少となっています。

②長期未払金

リース契約により病院情報管理システムを更新したことで、翌事業年度以降に負担することとなるリース債務が、12億9千8百万円増加しています。

③寄附金債務

奨学寄附金などの受入額が増加し、1億4千4百万円の増となっています。

【純資産】

純資産総額は28億7千万円増加の373億4千4百万円となっています。

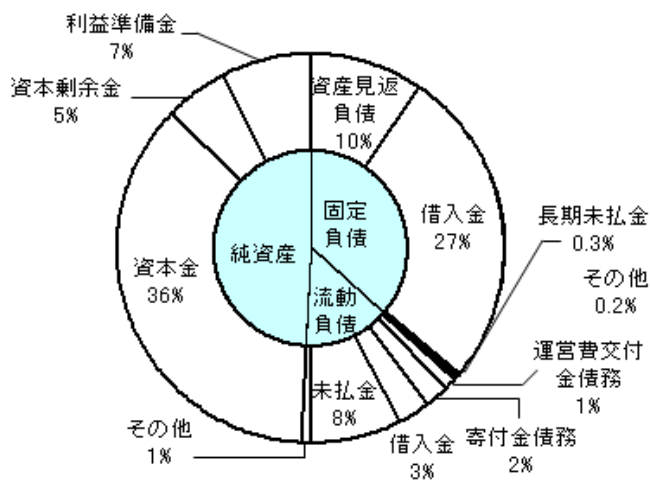
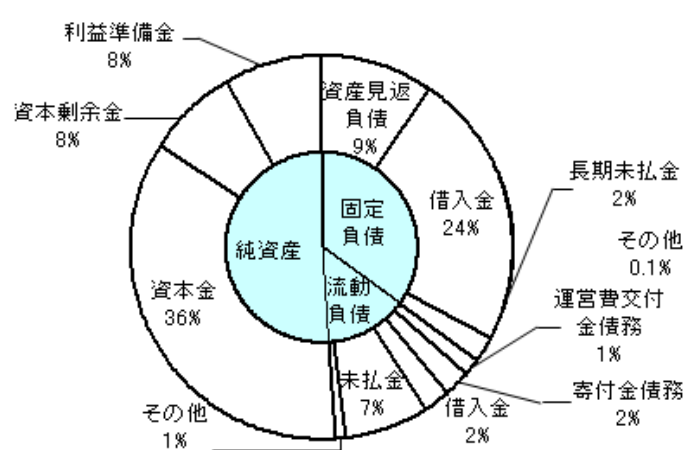
《特筆すべき点》

①資本剰余金

資本剰余金は、施設整備費補助金等で固定資産を取得したことにより、29億9千7百万円増加していますが、施設整備費補助金等で取得した固定資産の減価償却費10億1千2百万円が、損益外減価償却累計額として、資本剰余金から控除されています。

②利益剰余金

当期末処分利益は、1億9千1百万円減の14億8千3百万円となっています。

平成19事業年度**平成20事業年度**

損益計算書の概要

(単位:百万円)

項目	平成19事業年度 (H20.3.31現在)	平成20事業年度 (H21.3.31現在)	対前年度増減額(率:%)
経常費用	29,855	29,996	141 (0.47)
業務費用	28,279	28,293	14 (0.05)
教育経費	1,122	1,269	147 (13.10)
研究経費	1,067	1,171	104 (9.75)
診療経費	8,615	8,933	318 (3.69)
教育研究支援経費	424	291	△133 (△ 31.37)
受託研究費	544	675	131 (24.08)
受託事業費	180	168	△12 (△ 6.67)
役員人件費	104	94	△10 (△ 9.62)
教員人件費	8,845	8,619	△ 226 (△ 2.56)
職員人件費	7,378	7,073	△ 305 (△ 4.13)
一般管理費	904	1,066	162 (17.92)
財務費用	672	637	△ 35 (△ 5.21)
臨時損失	362	253	△ 109 (△ 30.11)

経常費用は1億4千1百万円増加の299億9千6百万円となっています。

《特筆すべき点》

①教育経費, 研究経費

新規プロジェクト事業(青森県における小・中・高等学校を対象とした教育力向上プロジェクト等)や, 平成20年度補正予算による事業(医学部定員増に伴う学生教育用設備整備等)などで, 教育経費で1億4千7百万円, 研究経費で1億4百万円の増となっています。

②診療経費

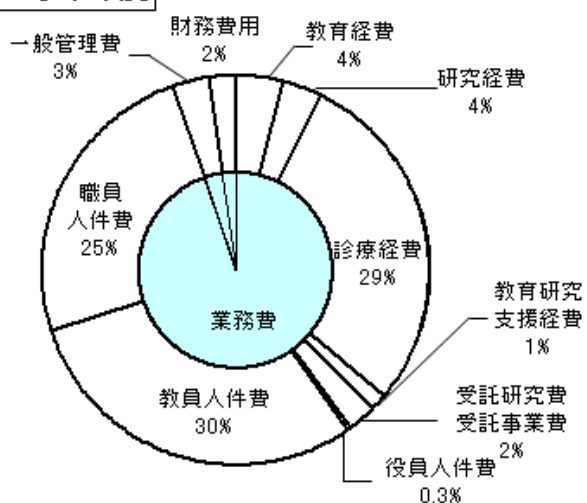
外来患者の増加や循環器系手術件数の増加等で, 医薬品費及び診療材料費が約1億円増となったほか, 平成19年度に竣工した外来診療棟に係る減価償却費の増加などで, 3億1千8百万円の増となっています。

③人件費

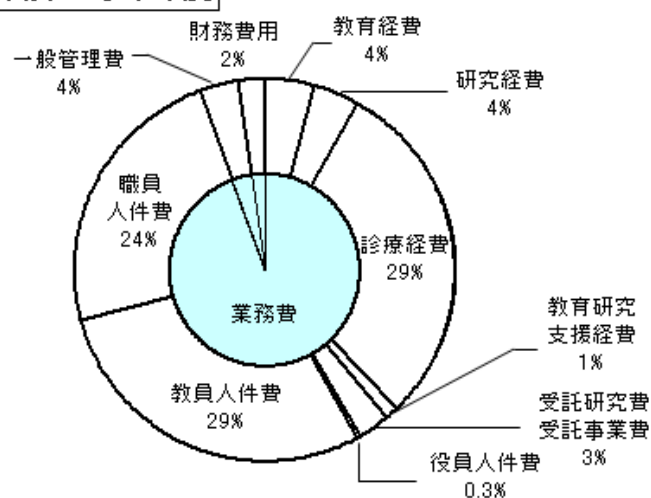
役員人件費, 教員人件費, 職員人件費ともに減少していますが, 平成20年度の退職者が減少したことで, 約3億5千6百万円の減となっています。

また, 退職者の補充を特任教員や高齢者の再雇用などで対応したこともあり人件費全体で5億5千1百万円の減少となっています。

平成19事業年度



平成20事業年度



(単位:百万円)

項目	平成19事業年度 (H20.3.31現在)	平成20事業年度 (H21.3.31現在)	対前年度増減額(率:%)
経常収益	31,817	31,729	△ 88 (△ 0.28)
運営費交付金収益	11,131	10,631	△ 500 (△ 4.49)
授業料, 入学金等収益	4,151	4,019	△ 132 (△ 3.18)
附属病院収益	14,148	14,716	568 (4.01)
受託研究等収益	542	679	137 (25.28)
受託事業等収益	187	165	△ 22 (△ 11.76)
施設費収益	305	288	△ 17 (△ 5.57)
寄附金収益	490	440	△ 50 (△ 10.20)
資産見返負債戻入	610	518	△ 92 (△ 15.08)
その他	253	273	20 (7.91)
臨時利益	16	1	△ 15 (△ 93.75)
目的積立金取崩額	58	2	△ 56 (△ 96.55)

経常収益は8千8百万円減少の317億2千9百万円となっています。

《特筆すべき点》

①運営費交付金収益

1%の効率化係数による減に加え、平成20年度の退職者が減少したこと等で5億円の減となっています。

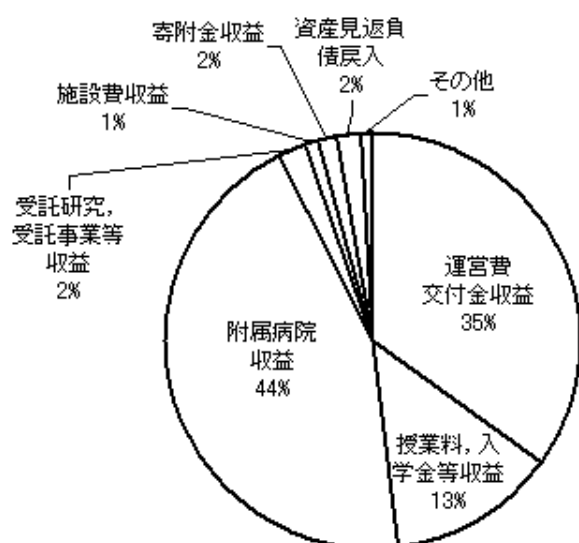
②授業料, 入学金等収益

入学金収益及び検定料収益については、平成19事業年度より約1千万円の増となったものの、授業料収益については、休学者の増加や授業料を財源に取得した実験台、講義用プロジェクター等の固定資産取得額が増加したことで、1億4千2百万円の減となっています。

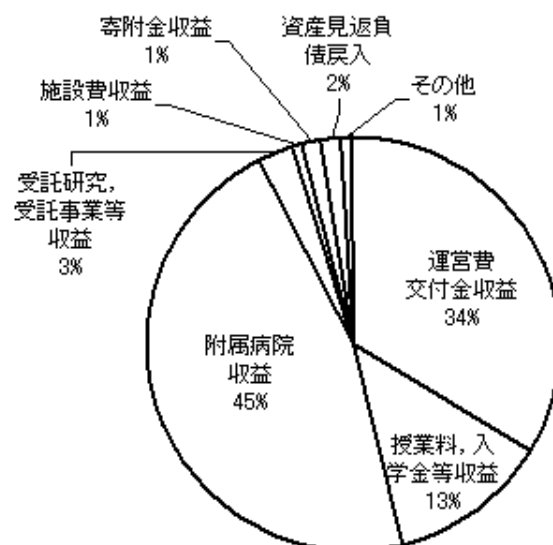
③附属病院収益

がん患者の外来化学療法や放射線治療の実施などにより、外来患者の増加が図られ、約2億6千1百万円の増となっています。また、腫瘍内科の設置や循環器系疾患に係る手術件数の増加などもあり、全体で5億6千8百万円の増となっています。

平成19事業年度



平成20事業年度



キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)

項目	平成19事業年度	平成20事業年度	対前年度増減(率:%)
業務活動によるキャッシュ・フロー	4,576	4,598	22 (0.48)
原材料等購入による支出	△ 9,414	△ 9,763	△ 349 (3.71)
人件費支出	△ 16,063	△ 16,139	△ 76 (0.47)
その他の業務支出	△ 998	△ 1,231	△ 233 (23.35)
運営費交付金収入	11,779	11,313	△ 466 (△ 3.96)
附属病院収入	13,816	14,573	757 (5.48)
学生納付金収入	3,967	3,933	△ 34 (△ 0.86)
外部資金収入	1,330	1,705	375 (28.20)
その他	159	207	48 (30.19)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 802	△ 2,008	△ 1,206 (150.37)
有価証券の取得による支出	△ 2,998	△ 111	2,887 (△ 96.30)
有価証券の償還による収入	3,795	609	△ 3,186 (△ 83.95)
固定資産の取得による支出	△ 4,390	△ 4,340	50 (△ 1.14)
定期預金の預入による支出	△ 7,000	△ 13,000	△ 6,000 (85.71)
定期預金の払戻による収入	7,000	12,500	5,500 (78.57)
施設費による収入	2,765	2,302	△ 463 (△ 16.75)
その他	26	32	6 (23.08)
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 959	△ 2,651	△ 1,692 (176.43)
借入金の納付による支出	△ 1,810	△ 1,770	40 (△ 2.21)
長期借入れによる収入	2,041	275	△ 1,766 (△ 86.53)
リース債務の返済による支出	△ 514	△ 518	△ 4 (0.78)
利息の支払	△ 676	△ 638	38 (△ 5.62)
資金増加額(減少額)	2,815	△ 61	△ 2,876 (△ 102.17)
資金期首残高	5,065	7,880	2,815 (55.58)
資金期末残高	7,880	7,819	△ 61 (△ 0.77)

①業務活動によるキャッシュ・フロー
原材料等購入による支出、人件費支出、その他の業務支出ともに増加しており、キャッシュ減の要因となっています。さらに、運営費交付金収入も4億6千6百万円の減少となっています。

しかし、附属病院収入が7億5千7百万円の増加、外部資金収入が3億7千5百万円増加したことで、業務活動によるキャッシュフローは、2千1百万円の増となりました。

②投資活動によるキャッシュ・フロー
有価証券の取引によるキャッシュ・フローは大幅に減少していますが、定期預金による投資活動が多く行われたことから、定期預金の預入による支出が60億円の増加、払戻による収入が55億円の増加となっています。

③財務活動によるキャッシュ・フロー
長期借入金による収入が17億6千6百万円減少したことで、財務活動によるキャッシュ・フローは16億9千2百万円増の△26億5千1百万円となっています。

利益の処分に関する書類(案)の概要

(単位:百万円)

項目	平成19事業年度	平成20事業年度	対前年度増減額(率:%)
当期未処分利益			
当期総利益	1,674	1,483	△ 191 (△ 11.41)
利益処分類			
目的積立金	597	563	△ 34 (△ 5.70)
積立金	1,077	920	△ 157 (△ 14.58)

①当期総利益

平成19事業年度より1億9千1百万円減少の14億8千3百万円となっています。

②目的積立金

経費節減や増収対策等の経営努力の対象となる利益は、3千4百万円減の5億6千3百万円となっています。

③積立金

経営努力認定の対象とならない利益は、1億5千7百万円減の9億2千万円となっています。

これらは、借入金元金返済額と減価償却費相当額のタイムラグ等が要因の非資金的利益となります。

“当期未処分利益14億8千3百万円のうち、現金の裏付けがあり事業の用に供することが可能な額5億6千3百万円を目的積立金、それ以外の9億2千万円を積立金として整理し、文部科学大臣に承認申請します。

“承認後、目的積立金はあらかじめ中期計画で定めた「剰余金の使途」に充てることができます。

本学における
中期計画

IX 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

国立大学法人等業務実施コスト計算書の概要

(単位:百万円)

項目	平成19事業年度	平成20事業年度	対前年度増減(率:%)
業務費用	10,464	9,950	△514(△4.91)
損益外減価償却相当額	954	1,037	83(8.70)
損益外減損失相当額	0	0	0(-)
引当外賞与増加見積額	△17	△28	△11(64.71)
引当外退職給付増加見積額	△541	240	781(△144.36)
機会費用	369	405	36(9.76)
(控除)国庫納付額	0	0	0(0.00)
国立大学法人等業務実施コスト	11,229	11,604	375(3.34)

国立大学法人等業務実施コスト計算書は、一会計期間に属する国立大学法人の業務運営に関し、国が負担したコスト(税金の投入)に係る情報を一元的に集約して表示したものです。

本学の業務実施コストは、平成19事業年度より3億7千5百万円増加の116億4百万円となっています。

①業務費用

損益計算書において、業務費用である教育研究経費及び診療経費の増加があったものの、人件費が減少したこと等から、5億1千4百万円の減少となっています。

②引当外退職給付増加見積額

教職員の定年等による退職者数が平成19年度に比べ少なかったため、期末在職者数が前期末より増加し、見積額が7億8千1百万円の増となっています。

決算報告書の概要

(単位:百万円)

項目	平成19事業年度	平成20事業年度	対前年度増減(率:%)
収入	36,643	35,425	△1,218(△3.32)
運営費交付金	11,902	11,355	△547(△4.60)
施設整備費補助金	2,712	2,249	△463(△17.07)
補助金収入	69	263	194(281.16)
財務センター施設費交付金	53	53	0(-)
自己収入	17,898	18,666	768(4.29)
授業料等	3,967	3,933	△34(△0.86)
附属病院収入	13,817	14,573	756(5.47)
雑収入	114	160	46(40.35)
産学連携等経費及び寄附金	1,742	1,930	188(10.79)
引当金取崩	0	36	36(-)
長期借入金	2,041	275	△1,766(△86.52)
承継剰余金	0	0	0(-)
目的積立金取崩	226	598	372(164.60)
支出	35,529	34,247	△1,282(△3.61)
業務費	25,219	26,071	852(3.38)
教育研究経費	12,985	13,337	352(2.71)
診療経費	12,234	12,734	500(4.09)
一般管理費	1,713	1,584	△129(△7.53)
施設整備費	4,806	2,577	△2,229(△46.38)
補助金等	69	263	194(281.16)
産学連携等経費及び寄附金	1,308	1,419	111(8.49)
長期借入金償還金	2,414	2,333	△81(△3.36)
収入－支出	1,114	1,178	64(5.75)

決算報告書は、発生主義で作成する財務諸表とは異なり、国の会計に準じて現金主義により作成したものです。

①収入

収入は、12億1千8百万円減少の354億2千5百万円となっています。

・運営費交付金は、1%の効率化係数及び退職者の減少などで5億4千7百万円減少しています。

・補助金収入は、平成20年度の補正予算で設備整備費補助金が交付されたことから、1億9千4百万円の増加となっています。

・附属病院収入は、外来患者の増加や循環器系手術件数の増等により、7億5千6百万円の増加となっています。

・長期借入金収入は、平成19年度に附属病院外来診療棟が竣工したことから、新規借入が減少し、17億6千6百万円の減となっています。

②支出

支出は、12億8千2百万円減の342億4千7百万円となっています。

・教育研究経費は、新規プロジェクト事業や平成20年度補正予算による事業などが増えたことで、3億5千2百万円の増加となっています。

・診療経費は、循環器系手術件数の増加等に伴い、特定保険医療材料や医薬品費が増加したことで、5億円の増となっています。

・施設整備費は、平成19年度に附属病院外来診療棟が竣工したことで、22億2千9百万円減少しています。